

国立印刷局の主な製品



経済活動の基盤となる日本銀行券。その高度な偽造防止技術は、日本銀行券を使う人々の信頼と安心のためにあります。様々な人に使われるものだからこそ、大きな責任感と強い使命感を持って製造しています。

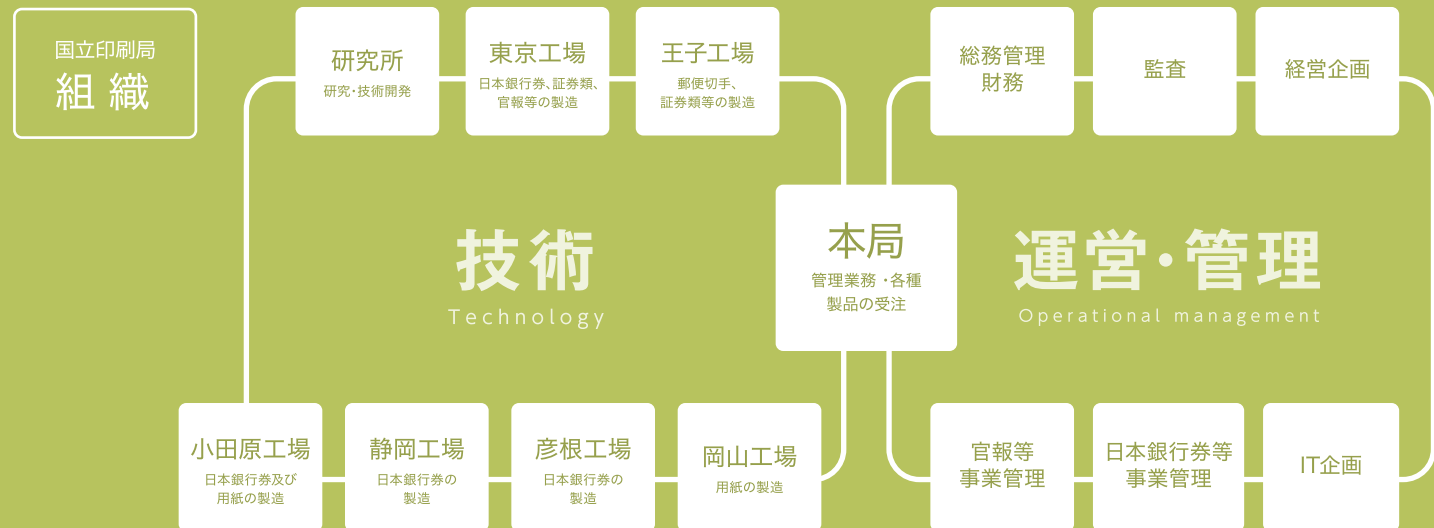
国立印刷局は、日本銀行券(お札)をはじめ、政府から国民へ伝える情報を掲載する官報、海外旅行に欠かせない旅券(パスポート)、郵便切手など、高い公共性を持つさまざまな製品や情報サービスの提供を通じて安心安全な経済・社会活動を支えています。

官報の情報は紙だけでなく、インターネットでも配信しています。直近90日間の官報情報(本紙、号外、政府調達等)はすべて、無料で閲覧できます。また、有料会員制の「官報情報検索サービス」で日付やキーワードを指定して検索・閲覧することができます。



繊細な画線と色彩の豊かさが目を引く郵便切手。その美しさから「小さな芸術品」と呼ばれることも。グラビア印刷と独自の技術が融合した郵便切手は海外からも高く評価されています。

明治16年に大政官文書局から創刊された官報。法律、政令、条約等、政府情報の公的な伝達手段として内閣府が発行しています。国立印刷局では、官報の編集、印刷及びインターネット配信を行うとともに、その普及に努めています。



社会の変化に合わせた、デジタル化への取組。

国立印刷局は、紙媒体への印刷だけでなく、デジタル化への取組にも力を入れています。国民生活を支える情報サービスを提供するため、社会の変化に対応した取組をいくつか紹介します。

●ベース・レジストリ

現在、日本では社会基盤として参照可能な基本データであり、正確性や最新性が確保された社会の基幹となるデータベース「ベース・レジストリ」の整備が進められています。国立印刷局は、法令、会社公告等の情報について正確かつ確実に管理し提供し続けてきた実績を活かし、ベース・レジストリの整備・運用に関してデジタル庁に協力して取り組んでいます。

●2025年旅券

旅券については、令和7年3月から2025年旅券の発給が開始され、旅券冊子の製造に加え、これまで旅券事務所等で行われていた個人情報書込業務についても国立印刷局において集中的に行っています。

●電子官報

「電子官報」については、官報の発行に関する事項を定めた、官報の発行に関する法律(令和5年法律第85号)が令和5年12月に公布され、法施行後はインターネットを利用して官報を発行(官報の電子化)されます。官報が法制分野のデジタル化の基盤となり、国民の方々がより迅速に法令等の情報にアクセスできるよう取り組んでいます。

●システムの開発・設計・運用

業務の効率化等を目的とした情報システムの適切な整備及び管理に関する取組を進めており、システムの最適化に加えて、運用・管理の内製化にも取り組んでいます。また、近年は工場の製造現場においてもICTの利活用が増えつつあります。さらに、製造工程内で収集される情報(生産、品質データ等)をシステム内で解析、活用、連携を可能とするシステム導入や、製造工程内の補助作業の自動化など工場のDX化の検討を進めています。

国立印刷局だからこそ、体感 できる高度な技術と誇りがある。

一貫製造体制が実現する唯一性と信頼性



詳しく知る▷



国立印刷局では、印刷だけでなく、用紙やインキといった諸材料の製造を始め、原図や原版の作製、印刷・仕上までを一貫して行っています。これらは徹底した管理体制のもとで行われ、高品質で均質な製品を生み出しています。偽造抵抗力が強く信頼される日本銀行券は、すべての工程において特殊かつ高度な技術が応用され作り出される「ものづくりの結晶」です。

日本銀行券の製造体制



FLOW 01 原図・原版



FLOW 02 製版



FLOW 03 インキ製造



FLOW 04 製紙工程



FLOW 05 印刷工程



FLOW 06 ホログラム貼付



FLOW 07 記番号印刷



FLOW 08 断裁



FLOW 09 検査・仕上



FLOW 10 封包

国民と政府をつなぐ官報

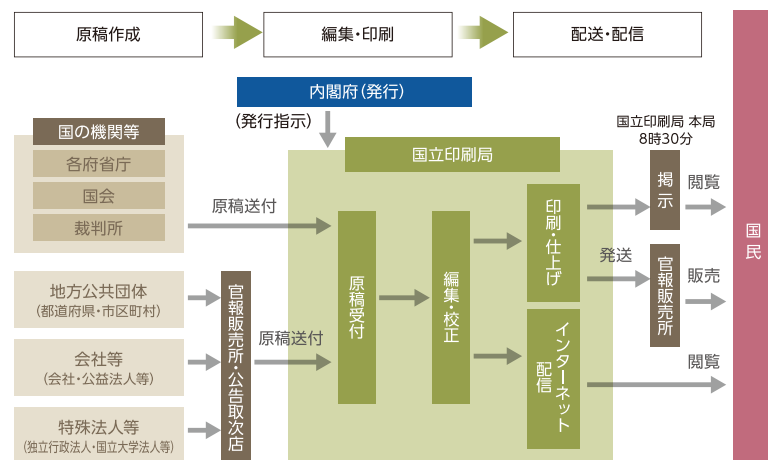


詳しく知る▷



官報は、発行日に国立印刷局及び東京都官報販売所に掲示するほか、インターネットで配信しています。内閣府の要請を受けて製造する特別号外や、非常災害対策本部設置の告示などは即時の製造・掲示を行うなど、国立印刷局では、各府省が円滑に政策を実行できるよう、常に適切かつ確実に対応できる体制を整えています。

官報の原稿が作成され、配送・配信されるまでの流れ



公的印刷物のセキュリティ確保に応用される高度な技術



詳しく知る▷



国立印刷局は、創設以来、偽造防止技術の研究に取り組んでいますが、それらは日本銀行券のみに使われるものではありません。開発された技術は、様々な公的印刷物のセキュリティ確保のために応用され、社会全体の安全性に貢献してきました。神奈川県小田原市にある研究所では、それぞれの技術に特化したスペシャリストを育成し、日々高度な最新技術や知的財産であるライセンス技術の研究に取り組んでいます。世界でもここしかない唯一無二の技術が多数存在しています。



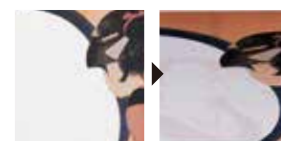
デジタル印刷機

デジタル印刷は、版面を使わないことで環境に配慮できるだけでなく、デジタル技術を最大限に活かした高度な偽造防止技術の付与を可能にします。研究所では実用化に向けて研究を進めています。



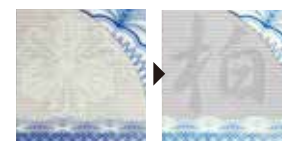
証明書発行システム

社会のデジタル化によって、カラー複合機などを用いて出力した印刷物はデジタル情報を補完する役割となりつつあります。研究所では、新たな時代を見据えた証明書発行事業システムの研究を進めています。



ラインビュー

正面から見ると規則正しい線が見えるのですが、斜めから見ると、別の模様が現れる技術です。この模様は、コピー機やプリンターでは再現できません。印刷物を傾けて見るだけで効果が起こるので、真偽判別のために特別な道具も一切ありません。



メタリックビュー

見る角度を変えることにより、光沢を持った複数の模様が現れる技術です。コピー機やプリンターではこのような再現はできません。印刷物を傾けて見るだけで効果が起こるので、真偽判別のために特別な道具も一切ありません。



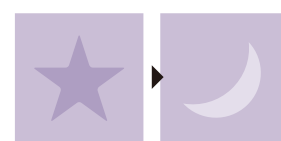
特殊形状スクリーン

特殊な形状の網点により、模様を表現する技術です。ルーペなどで拡大することにより、特殊な形状の網点を確認できますが、コピー機で再現することはできません。



イメージリブル

印刷物に特殊な透明シートを重ね合わせると、見えていた模様が別の模様へと明瞭に変わる技術です。透明シートの重ね合わせ方で、複数の異なる模様を出すことも可能です。これによって、誰でも簡単に真偽判別ができます。



コピーチェック

コピー機で複写すると目では見えにくかった文字や図形が現れたり、まったく別の模様が現れたりする技術で、複写防止策として高い効果を備えています。



イメージスイッチ

赤外線画像を見ると、まったく見えていなかった文字や図形などの隠し画像が現れる技術です。

高専で培った知識を活かして活躍



研究所総合研究部
R.K.さん
2018年入局
(電子制御工学科卒)

世界屈指の技術に自分の力を

研究開発を仕事にしたい!という思いで、国立印刷局への入局を決めました。世界でも屈指の偽造抵抗を持つという日本銀行券の製造に自分が携わっていることを嬉しく思うとともに、社会基盤を支えるという使命感に誇りを感じています。今の仕事は将来に向けた製品の偽造防止技術を創出する業務に取り組んでおり、難しいことも多いですがその分やりがいも感じます。高専時代に学んだ知識や様々な装置使用の経験は、今の業務にとっても役立っています。



本局IT企画推進室
システム運用管理グループ
M.I.さん
2009年入局
(電子制御工学科卒)

キャッシュレス化は成長のチャンス

私の今の仕事は、業務のインフラ整備と運用のために、調達や導入作業を行うことです。世界的にキャッシュレス化が加速している今、国立印刷局ももう一段階ステップアップするチャンスととらえて様々な検討や取組を行っています。そのためにはIT技術やシステムの知見がとても重要になっていきます。IT関連技術は進歩が早く、勉強することが尽きることがないため、業務は複雑で大変ですが、高専で情報通信技術を学んでいる方であればすぐにその知識は活かせる職場だと思います。